

私たちの町の遺跡

上高橋・城山上代

③「古墳時代の大集落 上高橋・城山上代」

独鈷山の西に市営上高橋団地がありますが、この団地を建てる時に大規模な発掘調査が行われました。工事前は田んぼと畑でしたが、一面に土器のかけらが散らばっていました。縄文時代から鎌倉時代までの長期間の遺跡で、特に古墳時代（1500年程前）には注目すべき成果がありました。

最大の特徴は出土品で、とにかく量が多い、種類が豊富、近畿地方とつながる貴重品も多い。さらに、低地だったために木・骨など有機質の物も残っていました。大きな溝や百を超える井戸には、たくさんの土器やひょうたん・モモを入れて何かのお祭りをしています。独鈷山際の湧水地からは、数cmサイズの小さなお祭り用土器や土製祭祀具が数百個も出土しました。大規模なお祭りを行っていることや出土品の特徴から考えると、この地域の王族が住む村だったと言えるでしょう。

周辺の山には古墳がたくさんあります。装飾古墳で有名な千金甲古墳も、この村に関連するのでしょうか。いくつかの川を隔てて村は広がっていたようで、城山上代町あたりでも同じような調査成果がありました。

(熊本市文化財課主任文化財保護主事 網田龍生氏より)

井戸に入っている土器

祭りに使ったいろいろな土器

